

# 青木儀太郎

あおき・ぎたろう

福山誠之館校長(第8代)

## 経歴

生:明治8年(1875年)10月、石川県生まれ

没:大正3年(1914年)3月1日、享年40歳

## 経歴

明治21年(1883年)7月10日	13歳	第四高等中学校補充科第二級入学
明治28年(1895年)7月3日	20歳	第四高等中学校卒業
明治31年(1898年)7月10日	23歳	東京帝国大学文科大学英文学科卒業
明治31年(1898年)8月25日	23歳	逓信省法務局書記、横浜港務局
明治31年(1898年)9月3日	23歳	逓信省横浜港務局庶務課兼港務課
明治33年(1900年)1月12日	25歳	逓信省依願免職
明治33年(1900年)1月13日	25歳	私立真宗京都中学教授
明治34年(1901年)4月6日	26歳	京都中学依願免職
明治34年(1901年)4月22日	26歳	広島県立福山中学校(誠之館)英語教諭
明治35年(1902年)6月12日～45年(1912年)4月22日	27～37歳	広島県立福山中学校(誠之館)校長
明治45年(1912年)4月22日	37歳	山形県立庄内中学校校長

## 関係年表

明治34年(1901年)6月12日	「広島県第二中学校」を「広島県立福山中学校」と改称
明治35年(1902年)3月8日	「広島県立中学校学則」公布
明治36年(1903年)12月12日	本校、教室増築竣工
明治37年(1904年)2月10日	日本、対露宣戦布告
明治38年(1905年)7月17日	東京誠之舎学生対本校生徒諸試合、講演会開催
明治38年(1905年)9月5日	日露講和条約調印
明治40年(1907年)4月29日	校友会を「誠之会」と改称
明治43年(1910年)1月	武術寒稽古、はじめて実施
明治43年(1910年)3月1日	県立福山書籍館廃止

明治43年(1910年)5月～8月	大逆事件
明治43年(1910年)8月22日	韓国併合に関する日韓条約調印
明治45年(1912年)1月17日	理科棟新築落成

## 生い立ちと学業、業績

### [事績・業績]

学校をいかに維持するかという問題が「県立」となり解決、内なる充実を図る時期の校長として、第7代瀬川彦四郎校長とともに、大きな業績をあげた。

瀬川校長の時に教諭として赴任、わずか1年、弱冠27才で校長に昇任したが、当然、前校長の強力な推薦があったに違いない。

それは前校長が進めていた校風の確立を託すことができる人物としての期待であり、この校長もそれに応え、前校長の指導方針を踏襲、よく「誠之」の理念の顕現に努めた。

『誠之館百三十年史』は次のように記す。

**「内外の政治では、日露戦争につづく日韓併合があり、思想的には、社会主義的風潮興起の中での大逆事件発生などという明治末期の激動期であった。**

**また当時の福中は、事あれば学校騒動をおこすことで有名な学校であったが、青木校長は寛容にして生徒を深く愛し、職員生徒の意見をよく受け入れた学校経営を行って、学校の充実発展につくした。**

**当時の卒業生葛原しげる(明治36年卒)は、「不可言の偉力」という言葉でこれをたたえている。**

**その上、服装態度が瀟洒上品で、田舎町福山にはめずらしいイギリス型紳士であり、このことでも生徒に強い印象を与えていた。**

**誠之館の歴史については、校長の職責上よく考究していて、例えば本校校友会を「誠之会」と改称したり(明治40年)、東京誠之舎学生との交流会をはじめたり(明治38年より)している。**

**また福山で誕生した長男の名を「誠之」と名づけているところからも、校長自身が「誠」の精神を人生の指針と考えていたことを物語るものであろう。」**

(『誠之館百三十年史(上巻)』629頁)

瀬川校長の時行われ、その転任とともに数年間途絶えていた、卒業生と在校生の交流会を復活させたこともこの校長の誠之館に対する深い思いの表れであった。

以後、この行事は「誠之館精神」を伝統として継承するという難事を脈々として後代に伝えるという点で、まことに大きな意味をもった。

この校長の方針のもう一つの特色は、「忠君愛国」精神の涵養である。

これは日露戦争を契機として文部省を中心に全国的に進められたものであるが、本校はその先駆的役割を担ったものと考えられる。

例えば、明治39年(1906年)1月、日露戦争の戦没者(13名)の家族に対して、その写真と

履歴書の送付を依頼し、送られてきた写真は、複写拡大して講堂に掲げた。  
そして、生徒に対して、これら諸先輩の勲功にならい、大いに感奮興起するよう督励している。  
この他、備後・福山招魂社への全校参拝など、学校行事として行われるようになった。

歴代在位期間第2位の10年間にわたって若さと情熱を注ぎ、瀬川校長と並んで、優れた人材を多く生んだ戦前の誠之館教育の、基礎確立に大きな役割を果たした校長であった。 松岡義晃(昭和28年卒)

#### 誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作	日付
07148	佐々木龍三郎 著	『ぎんぎんざらざら夕日が沈む 童謡 詩人 葛原しげるの生涯』	文芸社	平成26年

関連情報1:『誠之館百三十年史(上巻)』、628頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

2005年4月4日更新:肩書・本文●2006年3月27日更新:経歴・本文●2007年10月4日更新:経歴・関連情報●2008年2月15日更新:本文・関連情報削除●2014年10月30日更新:誠之館所蔵品●